

終章

まとめにかえて

合同会社公共コミュニケーション研究所 代表 CEO
東海大学 客員教授 **河井 孝仁**

本書は、都市自治体広報の様々な側面のうち、それぞれの研究員の執筆により、都市自治体広報のモデル化、行政広報を担い得る多様な主体の可能性、アーカイブとしての広報の意義、広報評価等を中心に記述した。

そのうえで、広報を戦略として実現することの重要性を改めて述べることで、本書のまとめとしたい。戦略的広報や広報戦略という言葉がよく用いられる。しかし、時に「なぜ、これが戦略なのか」と首をひねるものもある。単なる一覧表や、取組みの羅列、決意表明は戦略ではない。

戦略とは、①定量的な目標設定と、②その目標を実現するためのロジックモデルの設定と、③各要素の実現及び④逐次評価による速やかなロジック変更により成り立つ。

都市自治体として何を実現したいと考えるのか、その実現のために、この広報は何を達成しなくてはならないかを論理的に明らかにする。その達成目標を定量化することで、実現に近づいているかを明確にするとともに、有権者、納税者への説明責任を果たす。

そのためには、広報を丸ごと一体のものとして把握するのではなく、可視化と行動変容各々に部品の組み合わせとして捉える。それぞれの部品が、何を達成すれば、広報としての目標実現に繋がるかを仮説的に設定する。

そのうえで、各部品としての達成に誰が関わるかが望ましいかを思考する。都市自治体自身が専ら取り組むことが適切な部品もあれば、地域の別の主体が関わることでよりの確な達成ができる部品もある。それらの部品を、それぞれの主体が実現していく。都市自治体はその適切な組み合わせを構想し、十分な達成ができていないかを分析し、評価する。評価は走りながら行わなくてはならない。進捗の都度を評価することで、必要に応じ仮説的に設定したロジックモデルを修正する。戦略的とはそのような取組みである。

都市自治体で広報を担っている人々に、期待することは大きい。
地域に関わる人々の幸せのために奮闘をお願いします。

